

平成22年度 第2回 磐田市立学校給食運営委員会 会議録

日 時 平成22年11月10日(水) 午前10時00分から午前11時15分

場 所 磐田市立豊田学校給食センター 2階会議室

出席者 委 員：11名

事務局：12名

(教育長、教育委員会事務局長、教育総務課長、学校給食管理室5名、
学校給食センター4名)

1. 会長あいさつ

この豊田学校給食センターでは、今年の9月から民間委託が始まりました。本日は約4ヶ月ぶりの運営委員会ということで、皆様の忌憚のないご意見をいただきたいと思えます。どうぞよろしくお願いします。

2. 議事

(1) 報告第3号 平成22年4月から9月までの栄養摂取状況及び喫食状況について

(事務局)

～栄養摂取状況の説明～

栄養素の充足率は、ほぼ100%を満たしていますが、食物繊維や鉄は、まだ不足しています。静岡県全体でも、磐田市と同じ傾向です。食物繊維を多く含む、野菜・海藻・豆類等や鉄を多く含む食品であるレバー、あさり、ひじきなども、栄養価、食品構成を確認しながら、工夫し献立に組み込んでいますが、なかなか必要量に追いつかない状況です。家庭で登場しにくい食品を給食ですべて補うことは難しく、これらの食品は、子どもの苦手とする食品であったりしますので、栄養士訪問や昼の放送での呼びかけ、栄養指導等をしながら、少しずつ増やしていきたいと思えます。

～喫食状況について～

今年は、10月に入っても暑い日が続きました。例年は、10月に入り気候が良くなると同時に食欲も増し、残菜もかなり減りますが、今年はいつまでも続いた暑さが喫食に大きく影響したようです。もちろん、残菜率の高いものについては、量や味が適切であったかなどその原因についても検討し、次の献立作成等に活かしています。残食から分かることとしては、献立が子どもの苦手とする味、特に酸味であったり、量が多すぎる、組み合わせが良くない、食べる時間が短いということもあります。また、幼稚園で言えば天気により活動量が少なかったりすると食べ量が少ない、午前中に収穫したものを食べるなどの行事がある、苦手な食材である、嫌い決め付けて食べようとしないなど様々な要因が考えられます。色々なことが考えられますが、連絡ノート等で学校と連絡を密にとりながら、残菜の結果、感想・意見を次回の献立作成に生かすようにしていきたいと思えます。

[質疑]

(委員)

今年は野菜が高かったわけですが、値段との関係で工夫したところがありますか。

(事務局)

献立作成の際には既製品のデザートは抑え、なるべく季節の果物を出しています。そのうえで、りんごを6分の1から8分の1にし、ぶどうの粒を減らす等の対応をしました。

(委員)

長野小は自校式の給食ですが、栄養指導については磐田南小から栄養士さんが来ています。自校式の献立は学校で調整すると思いますが、長野小ではどなたが調整しているのですか。

(事務局)

長野小学校は磐田南小学校の栄養士が見ております。また、栄養指導につきましては、磐田南小の栄養士と学校給食管理室の栄養士が、手分けして関わっています。

(会長)

残菜率について、数字的には0パーセントを目指していると思います。メニューによって違うとは思いますが、磐田市以外との比較や県で話題になっているのかその辺があれば聞かせていただきたい。

(事務局)

毎年、県や国から残菜の調査が来ておりまして、主食や副食の残菜率データも各学校に来ます。それを自分の管轄と比較しています。料理別の残菜率を見ると嗜好の傾向がはっきりしています。そのため、食物繊維を含むものや生活習慣病予防のために、是非食べて欲しいものについては残菜率も高いため、PRに力を入れる指標として使用しています。

(2) 議案第1号 平成23年度磐田市立幼稚園、小学校及び中学校の給食実施日数について

(事務局)

平成18年度から、全ての小中学校で年間180日の統一した給食実施日数となっています。このため、平成23年度も小中学校につきましては、年間180日で実施させていただきたいと思っております。

幼稚園につきましては、3歳児の給食開始時期が磐田・豊岡地区は7月から、福田地区は6月から、竜洋・豊田地区は5月からと違うため、磐田地区94日、福田地区111日、竜洋地区147日、豊田地区147日、豊岡地区110日で実施しています。それから、4・5歳児につきましては、磐田・福田地区は週4日、竜洋・豊田・豊岡地区は週5日給食を実施しているため、教育課程等も考慮して、磐田地区130日、福田地区136日、竜洋地区157日、豊田地区157日、豊岡地区154日で実施しています。しかし、合併してから6年を経過しているため、市としましては同じ教育課程で同じサービスを提供したいと考えており、2～3年後には市内統一した実施日数にしたいと考えています。このため、今年の8月31日に各地区の園長さんが集まり、給食検討

委員会を開催していただきました。この話し合いの結果、3歳児については磐田地区が94日から114日、福田地区が111日から114日、竜洋・豊田地区が147日から144日、豊岡地区が110日から114日になりました。また4・5歳児については、磐田地区が130日から145日、福田地区が136日から145日、竜洋・豊田地区が157日から154日、豊岡地区は平成22年度と同じ154日にしたいとの申し出がありました。このため、平成23年度の3歳児につきましては、磐田・福田・豊岡地区は114日、竜洋・豊田地区は144日、また4・5歳児につきましては磐田・福田地区は145日、竜洋・豊田・豊岡地区につきましては154日で実施させていただきたいと思っております。

この日数変更につきましては園が入園説明会等で保護者に説明して参ります。幼稚園の給食日数につきましては、開始時期や日数を統一する方向で、引き続き協議を続けていきたいと考えています。

補足ですが、豊田・竜洋地区は回数が減っています。それは前年豊田地区から園外保育ができないので回数を減らして欲しいという申し出がありました。しかし、一度に多くの回数を減らすのもどうかということで、昨年度に引き続き少しずつ減らして園外保育を充実させるものです。

[質疑]

なし

[審議の結果、議案第1号は承認された。]

(3) 議案第2号 平成23年度磐田市立幼稚園、小学校及び中学校の給食費について

(事務局)

先ほどの議案第1号で、豊岡地区の4・5歳児を除いた給食日数が変更となり、幼稚園の月額給食費が変更されます。1食の単価は変更ありません。3歳児につきましては、磐田地区は2,810円から3,030円、福田地区は2,660円から2,730円、竜洋地区は3,520円から3,450円、豊田地区は3,160円から3,100円、豊岡地区は2,770円から2,550円に変更となります。また4・5歳児につきましては磐田地区2,830円から3,150円、福田地区は2,660円から2,840円、竜洋地区は3,420円から3,350円、豊田地区は3,070円から3,010円に変更となっております。

平成23年度はこの月額で実施させていただきたいと思っております。

なお、1食単価の違いは、主食である米飯の違いです。福田・豊田地区と磐田地区中学校についてはセンター炊飯ですが、竜洋地区と磐田地区幼稚園・小学校については単独調理場ということで委託炊飯です。このため、センター炊飯の所よりも高くなっております。また、豊岡地区については米飯持参ですので、単価が一番安くなっております。

月額の算出方法ですが、1食単価に実施日数を掛け、月数で割ったものを10円単位で切り上げています。

[質疑]

(委員)

豊岡地区は米飯持参ということですが、保護者の方はそれで納得しているのですか。

(事務局)

豊岡地区は伝統がありまして、保護者の方も協力していただいています。

現在の豊岡学校給食センターは平成 11 年から稼働しておりますが、最初のセンターは別の場所に昭和 46 年頃に建築されました。その当時の藤森村長が、全国に先駆けて持参米飯を実施したいという、政策的なものから始まっています。豊岡は農村地区ですので米農家が非常に多く、子どもたちに温かいご飯を食べさせたいという方針で実施してきたと聞いています。現在は週に 3 回、保護者の方が弁当箱にご飯を詰めて、子どもが学校へ持ってきます。ご飯の量については、保護者の方が様子を見て多くしたり減らしたりするという調整をしています。その弁当箱をカゴに集めて、学校にある保温庫に入れ、昼に取り出して食べるという方式です。保護者と子どもの中で弁当箱をやり取りしますので、そこで給食についての会話ができるという良い面があります。それが原因だとは思わないですが、豊岡地区は給食費の収納率が 100% です。

このことについて、保護者の方は納得しているかというご質問ですが、資料によると平成 15 年度にアンケートを取っています。当時の結果を見ると良好だということで伺っています。弁当箱は、市から同じ規格の物を用意して貸与しています。今のところ保護者からセンターへの苦情等はありません。

[審議の結果、議案第 2 号は承認された。]